

病床機能の 再編統合について

阿波病院



吉野川医療センター



令和7年8月

統合関係病院の概要①

【阿波病院】

昭和23年の開設以降、地域に密着した病院として、一般診療はもとより血液透析、訪問看護にも取り組んできた。

医療需要の変化への対応、また、医療人材確保も困難なことから、段階的に病院機能を縮小している。

- ・令和元年9月 再検証対象医療機関の位置づけ
- ・令和6年3月 「吉野川医療センターとの医療機能分化」合意
(R5東部地域医療構想調整会議)
- ・令和7年3月 「病院機能の段階的縮小」合意
(R6東部地域医療構想調整会議)

	阿波病院 (東部圏域)
許可病床数	一般133床 (急性期73床、回復期60床)
稼働病床数	一般40床 (回復期:地域包括ケア病棟) 〔休床〕 急性期_R2以前37床、R6.4月36床 回復期_R7.4月20床
1日あたりの患者数 R7.6月末時点	入院患者数 38.7人 外来患者数 143.4人
診療科	内科、小児科、外科、整形外科、 泌尿器科、放射線科
付属施設	訪問看護ステーションあわ

統合関係病院の概要②

【吉野川医療センター】

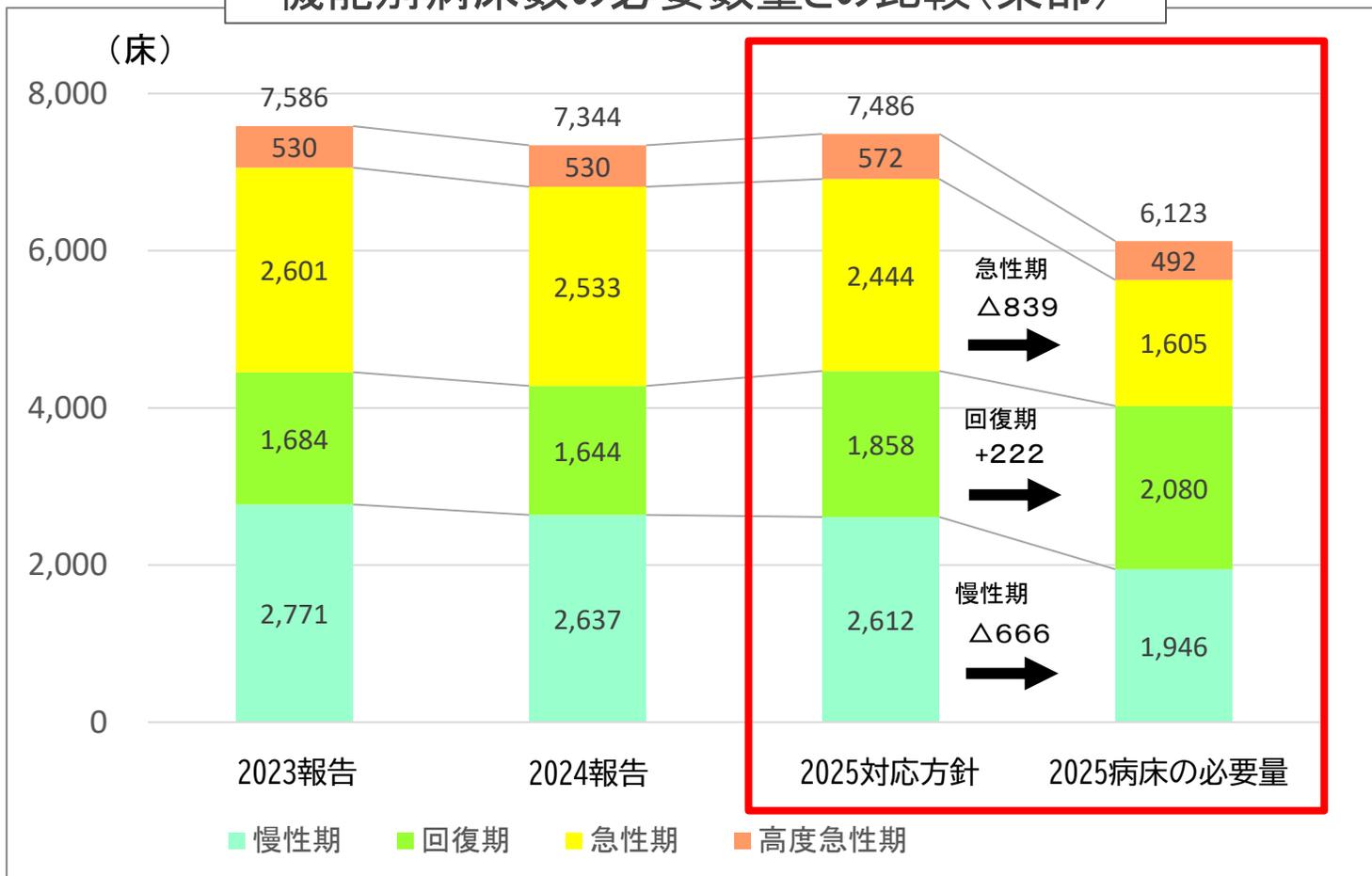
県中央部における中核病院として、救急医療・小児医療・周産期医療等の政策医療や、20診療科での専門治療、がん治療等の高度医療を担っている。

救急医療においては、二次救急医療機関として、増加する救急搬送要請に応え、年約3,500件の救急搬送患者を受け入れている。

	吉野川医療センター (東部圏域)
許可病床数	一般290床 (急性期290床)
稼働病床数	一般290床 (急性期290床)
1日あたりの患者数 R7.6月末時点	入院患者数 264.9人 外来患者数 589.2人
診療科	内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、肛門外科、脳神経外科、整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科・産婦人科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、放射線科、心臓血管外科
付属施設	訪問看護ステーション協同

東部医療圏の現状

機能別病床数の必要数量との比較(東部)



- 県人口の71.8%(R7.4)が集中
総人口は減少傾向の中、65歳以上は
2040年まで増加する見込み

- 必要数量に対する
2025対応方針の予定数量
急性期・慢性期は過剰、回復期は不足

2025対応方針に含まれる病床数

- 阿波病院 96床 (急性期36床・回復期60床)
- 吉野川医療センター 290床 (急性期290床)

- 「医療機能の分化と連携」推進のため、
病床機能の転換を進める必要

(令和7.3.25東部地域医療構想調整会議)

統合計画の概要

○【阿波病院】

- ・過剰とされる「急性期病床」削減、吉野川医療センターに機能を集約
- ・診療所（無床）に移行／外来機能の段階的縮小により閉院へ（令和8年度）

○【吉野川医療センター】

- ・入院診療及び外来診療における急性期機能等の強化
 - － 急性期病床の統合、透析治療・訪問看護ステーションの合併など －
 - － 医療スタッフほか、医療資源集約による各部門の体制強化 －

厚生連[公的医療機関]として安定的な病院運営に取り組み、医療提供体制を維持してまいります。

2040年の到来を見据え、地域包括ケアシステムの深化・推進に貢献